

<テーマ>

昨年、コロナ禍→歌っちゃいけない、出歩かない、レストランも映画も飲み会もダメ。あきらめムードの中、リモートでホールからライブ配信できると知った時の喜び。

テーマはああ、「会いたい」みんなに!

今年、まだ、コロナが収まらない。離れていても心は一緒。今年はリモートでより存在を身近に感じられる、そんなふれコンに照準を合わせる。今年のテーマは「一歩前へ!」。どんな状況であろうと、情熱を絶やすことなく前を向いて歩いていくんだ。



<ふれコンとは?>

障害があってもなくても、コンサートやミュージカルを通して、お互いにも交流し、一緒に生きていくことを目指しています。1年をかけて、オリジナルな『コンサート』と『ミュージカル』を準備し、創る人、演じる人、聴く人、支える人がそれぞれの小さな関わりをつむぎ、お互いを知っていくこの道程がお互いの理解につながっていきます。これがふれコンの魅力。コンサート当日は、その思いを結集し、メッセージとして発信。みんなで盛り上がり、みんなで味わい、その余韻とともに次年度が始まります。

<ふれコンのあゆみ>

1981年の「国際障害者年」に県のイベントとして生まれ、次年度からボランティアによる実行委員会が運営し、今年で41歳!

当初は障害者を一般の人が支えることで始まりました。詩や曲の募集、ホールでのコンサートやミュージカルの継続、伝達手段の広がり、インクルーシブ社会への変化を受け、今では、北海道から沖縄までより幅広く参加し、障害のある人もない人も、アマもプロも、人々の中にある垣根を超え、音楽を通して同じ時間と場所を共有するようになりました。

<今年の見どころ>

2年ぶりの詩募集の再開。支援学校の卒業生の応募が多く、また、バラエティに富んだ曲や、コロナに関する曲も寄せられ、どれも傑作ぞろいの中から、11曲を選びました。

コロナ禍でも未来への希望を胸に、心豊かに生きていきたいという思いや、インクルーシブな社会への願いが散りばめられ、プロのミュージシャンや高校生がボーカロイドで作った曲もあります。みんな素敵なふれコンの仲間たちです。



山の都ふれあいコンサートとわたし・・・

5人の方々と合唱隊からのメッセージ

